

[論文] 過疎化・高齢化の地域特性に関する比較研究Ⅲ

上津江村高年者 (60歳以上) 生活調査報告

Comparative Study of the Depopulation and Aging in Local Community Ⅲ  
— Research Report of the Elders (over 60 years old) in Kamitue Village (Oita prefecture) —

吉 良 伸 一  
Shin-ichi Kira

**abstract**

The percentage of the total population over 65 has increased More than 30 % in Kamitue village. Oita prefecture, the depopulation and aging of population is most serious in Japan. Through the research on elders in kamitue villege, we report on the characteristics of the family and community in this area.

**はじめに**

かつて急激な人口減少が続いた過疎地域でも、昭和40～45年の13.0%の人口減少をピークに55～60年3.7%まで落ち着きをみせた。しかし、昭和60～平成2年5.8%と再び増加した。平成2～7年は4.7%と人口の減少傾向は再び続いている。不況時は民間需要の低下と公共事業等により、人口分散が進むのが一般的である。平成3年のバブル崩壊以降の不況にも関わらず、減少が進むことは、人口高齢化による人口の自然減がその原因であることを示している。過疎地域は昭和62年に人口自然減となり、平成7年で-0.39%となっている\*1。

大分県は、市町村58のうち過疎市町村が44(77.6%)と、全国でもっとも多い。平成7年の国勢調査では、県人口の25.4%が過疎地域人口で鹿児島県35.2%・秋田県28.3%に次ぎ、全国3位である。

上津江村は、大分県の最西端に位置し、日田市から33km・大分市から120km・熊本市から48kmに位置する。東西12km・南北12.5km・総面積88.53平方kmで平地はきわめて小さく人工林の割合は県下でもっとも高い。平成9年12月時点の住民基本台帳による人口は1350人で65歳以上の高齢者率は31.0%となっている。厳しい条件にもかかわらず、第3セクターによる林業会社トライウッド(正社員33・準社員19・平9年12月)で20代・30代23名(うち正社員22)を雇用する。また新規就農世帯の受け入れで96年3世帯・97年4世帯を受け入れている。最近では、ヒラメの稚魚の養殖をはじめると、様々な試みを始めている。

## 1、調査の概要

この調査は上津江村の60歳以上の全高年者を対象に、高年者の生計・家族・健康などの生活実態と意識について把握し、今後の行政の基礎資料とするために、平成10年1月に実施した。調査の企画・立案は大分県立芸術文化短期大学コミュニケーション学科助教授吉良伸一が担当した。調査票の作成にあたっては、上津江村と大分県立芸術文化短期大学吉良伸一と共同で作成した。調査結果の分析・集計・分析は吉良が担当した。なお、調査の実施・集計・分析にあたっては、文部省科学研究費基盤研究C「過疎化・高齢化の地域特性に関する比較研究」(研究代表者 吉良伸一)の交付をうけた\*2。

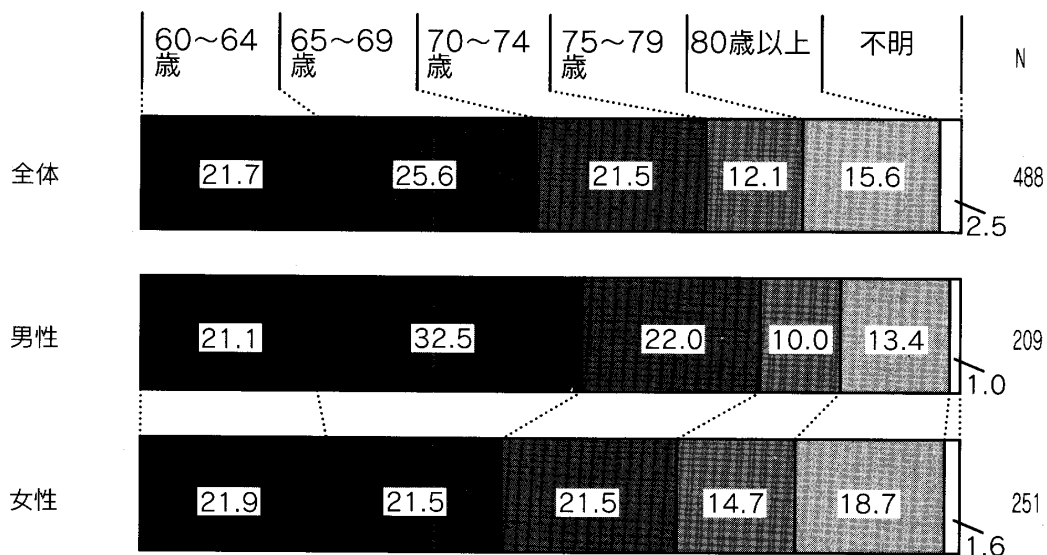
調査の実施は、平成10年1月、上津江村住民福祉課が担当した。調査方法は面接法と調査票留置法を併用した。平成9年12月の住民票による60歳以上人口540人を母数とした、有効回収票488の有効回収率は90.4%である。高年者を対象とした調査としては、十分な回収率である。

## 2 対象者の基本属性

対象者488名中男性209(42.8%)・女性251(51.4%)・無記入12(2.5%)となっている。

年齢構成は60-64歳が21.7%65-69歳25.6%・70-74歳21.5%・75-79歳12.1%・80歳15.6%・無記入2.5%である。男性では65-69歳が32.5%と多く、女性では70-74歳が14.7%・80歳以上18.7%が男性より多い。性別と年齢構成では5%水準の有意差がある。

性別年齢別構成



最終学歴は小学校・高等小学校・新制中学校卒の初等教育が79.3%・新制高等学校・旧制中学・旧制女学校の中等教育が11.9%、旧制高校・旧制高専・大学などの高等教育3.3%、無記入5.5%となっている。性別・年齢別に有意差はでていない。

最終学歴

|        |        | 小学校・校等小<br>学校・(新制)<br>中学 | (旧制)中学校<br>・女学校・農学<br>校など | (旧)高等専門<br>・高等学校・<br>(新) | 不明   | N   |    |
|--------|--------|--------------------------|---------------------------|--------------------------|------|-----|----|
| 全体     |        | 79.3                     |                           |                          | 11.9 | 488 |    |
| 60～64歳 |        | 81.8                     |                           |                          | 13.0 | 44  |    |
| 65～69歳 |        | 79.4                     |                           |                          | 13.2 | 68  |    |
| 男性     | 70～74歳 | 80.4                     |                           |                          | 13.0 | 6.5 | 46 |
|        | 75～79歳 | 81.0                     |                           |                          | 9.5  | 21  |    |
|        | 80歳以上  | 85.7                     |                           |                          | 7.1  | 28  |    |
|        | 60～64歳 | 67.3                     |                           | 16.4                     | 14.5 | 55  |    |
|        | 65～69歳 | 83.3                     |                           |                          | 13.0 | 54  |    |
| 女性     | 70～74歳 | 83.3                     |                           |                          | 14.8 | 54  |    |
|        | 75～79歳 | 83.8                     |                           |                          |      | 37  |    |
|        | 80歳以上  | 85.1                     |                           |                          | 8.5  | 47  |    |

### 3 出生地・他出経験・定住意志

出生地は上津江村生まれが74.4%・町外生まれが23.2%・無記入2.5%である。町内生まれは男性84.7%・女性68.1%と男性で町内生まれが多い。性別で有意差があるが、年齢別では有意差はない。

現住所の居住期間は明治以前21.5%・明治期から7.2%・大正期から9.4%・昭和戦前から31.1%・戦後から昭和49年まで31.1%・昭和50年代1.4%・昭和60年以降5.1%・不明0.6%・無記入4.1%となっている。性別・年齢別で有意差がある。男性で明治以前・女性で戦後が多い。年齢が若いほど戦後期が多く、明治以前が少ない。

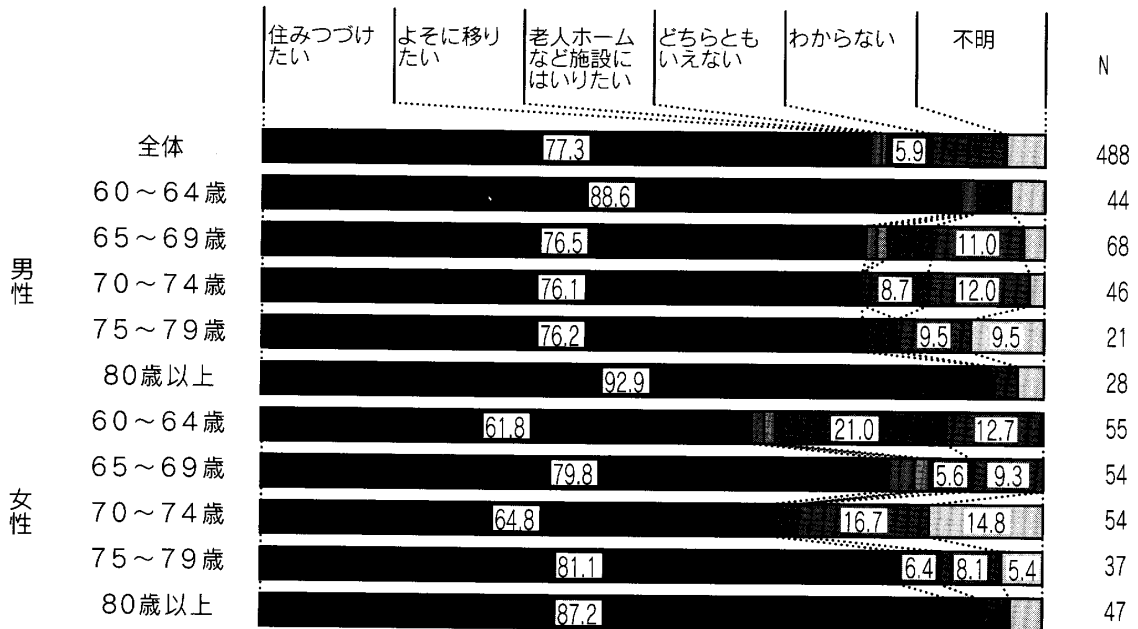
学校の関係や仕事で上津江村を離れたことのある人は、ある30.9%・ない62.3%・無記入6.8%である。男性である36.4%・女性26.7%で有意差がある。年齢別では有意差がない。

他出経験のあるものの他出期間は1年から5年が37.1%、ついで10年以上が27.2%・5年から10年未満22.5%・1年未満9.9%となっている。男性で5年以上が多く、女性で5年未満が多い。年齢が高いほど他出期間が長くなる傾向がある。

現在住んでいるところにこのまま住み続けたいかでは、住み続けたい77.3%・よそに移りたい1.6%・老人ホームなどに入りたい0.6%（3名）・どちらともいえない5.9%・わからない9.6%・無記入4.9%である。性別・年齢別に有意差がない。

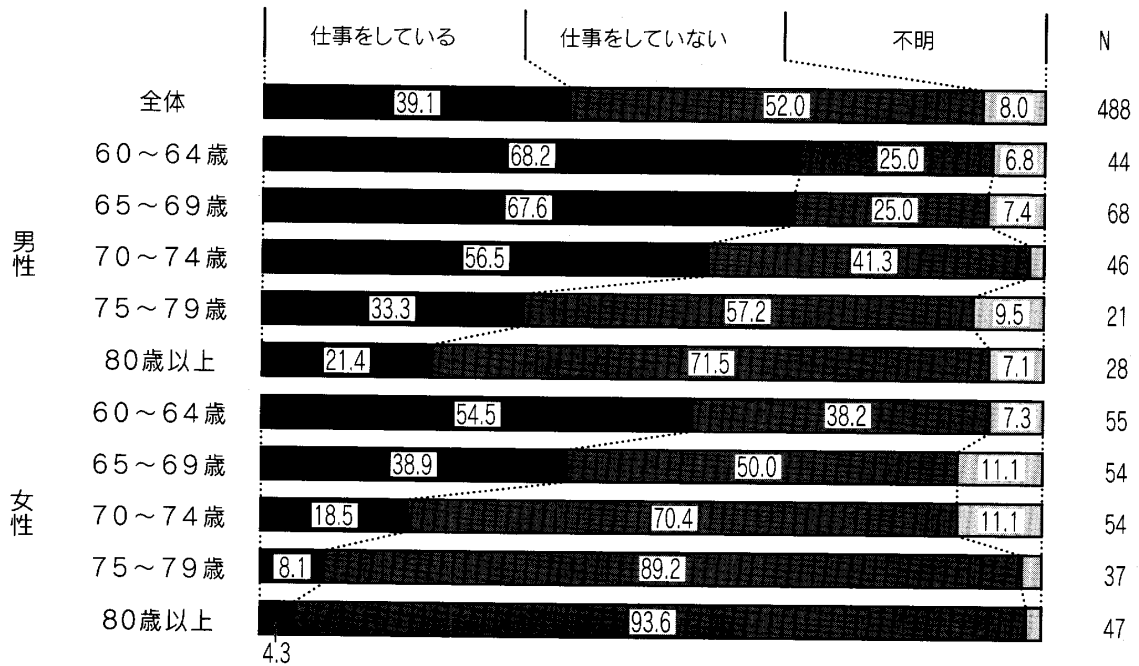
高齢者向け住宅について、入居したい36名7.4%・一人になったら入居したい109名22.3%・入居したいと思わない163名33.4%・わからない133名27.3%・不明47名9.6%となっている。性別・年齢別に有意差がある。入居したい36名中男性6名・女性27名・不明3名で女性が多い。一人になったら入居したいは男性が多い。年齢別では入居したいが高齢ほど多い。一人になったら60歳代が多い。

定 住 意 思



4 収入・仕事

就 業 状 況



現在、収入のある仕事をしている人は39.1%・していない52.9%・無記入8.0%である。平成4年の厚生省「国民生活基礎調査」\*3では、全国60歳以上で仕事をしている人は32.2%・大分

県30.0%、全国・大分県平均よりかなり高い。性別・年齢別で有意差がある。男性で仕事をしている55.0%・女性26.3%、60-64歳では男性68.2%・女性54.5%が、65-69歳で男性67.6%・女性38.9%が仕事をしている。

仕事の内容は、農林漁業が57.1%と最も多く、労務系の仕事16.8%・商工サービス7.9%・事務技術職2.6%などとなっている。性別と年齢別で有意差がある。男性では農林漁業が67.0%・労務系16.5%が多い。女性では農林漁業40.9%・商工サービス15.2%が多い。年齢別では65-69歳で農業が78.0%と多い。

1ヶ月の収入は、5万円以内37.5%・5万から10万円以内22.5%・10万から15万円以内10.5%・15万から20万円以内4.9%・20万円から25万円以内3.5%・25万円から30万円以内1.8%・30万円以上1.8%・無記入17.4%となっている。5万円以内が男性で25.8%・女性で47.4%と最も多い。男性では10万台が女性より多い。年齢が高いほど5万以内が多い。

収入源（複数回答）は、年金70.5%・仕事からの収入33.8%が多い。財産からの収入4.3%・子どもからの援助2.3%・生活保護などの社会保障1.6%となっている。男女とも年金が多いが、男性で仕事からの収入52.6%が女性の23.6%に比べ多い。

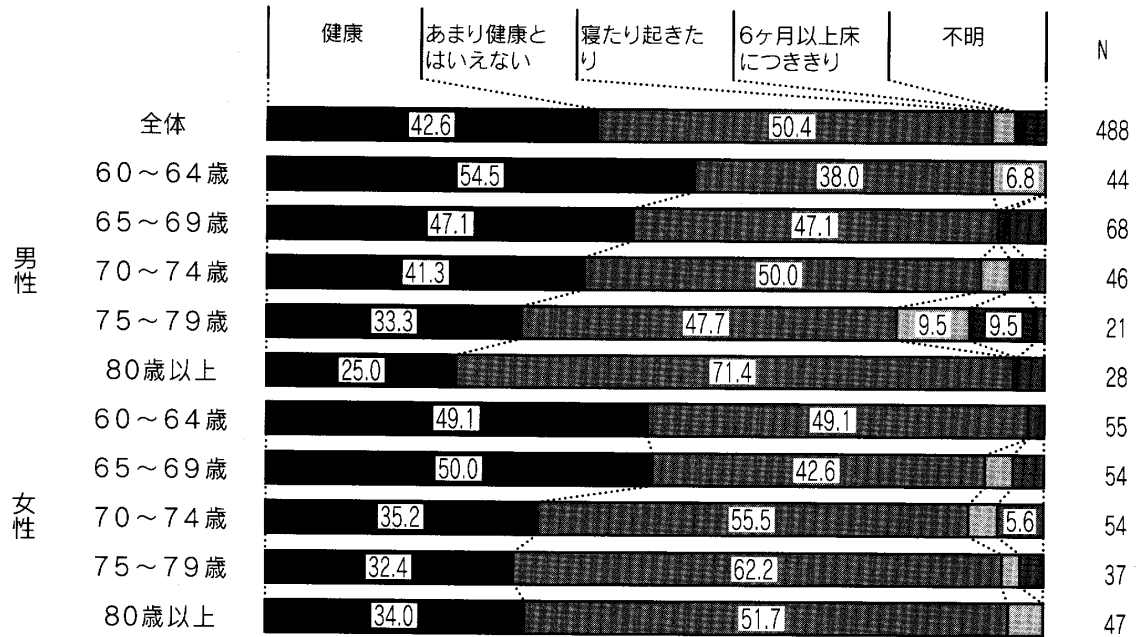
就 業 の 内 容

|        | 農林漁業 | 商工サービス<br>自営 | 事務・技<br>術職 | 労務系  | 内職   | その他  | 不明   | N   |
|--------|------|--------------|------------|------|------|------|------|-----|
| 全体     | 57.1 |              |            |      | 7.9  | 16.8 | 12.6 | 191 |
| 60～64歳 | 63.3 |              |            |      | 6.7  | 20.0 | 6.7  | 30  |
| 65～69歳 | 76.1 |              |            |      |      | 13.0 | 6.5  | 46  |
| 男性     | 57.7 |              |            |      |      | 25.0 | 7.7  | 26  |
| 75～79歳 | 57.1 |              |            |      |      | 28.6 | 14.3 | 7   |
| 80歳以上  | 66.7 |              |            |      |      |      | 33.3 | 6   |
| 60～64歳 | 40.0 |              |            | 13.3 |      | 4.7  | 23.3 | 30  |
| 65～69歳 | 52.4 |              |            |      | 19.0 |      | 23.8 | 21  |
| 女性     | 20.0 | 10.0         | 10.0       | 10.0 |      | 50.0 |      | 10  |
| 75～79歳 | 33.3 |              |            | 33.3 |      | 33.3 |      | 3   |
| 80歳以上  | 50.0 |              |            |      |      | 50.0 |      | 2   |

5 健康状態

健康状態は健康42.6%・あまり健康とはいえない50.4%・寝たり起きたり3.1%・6ヶ月以上寝たきり0.8%・無記入3.1%である。寝たり起きたりは15人・寝たきりは4人となっている。性別・年齢別で有意差はない。男性で健康42.6%・あまり健康でない49.3%、女性では健康41.0%・あまり健康でない53.4%となっている。

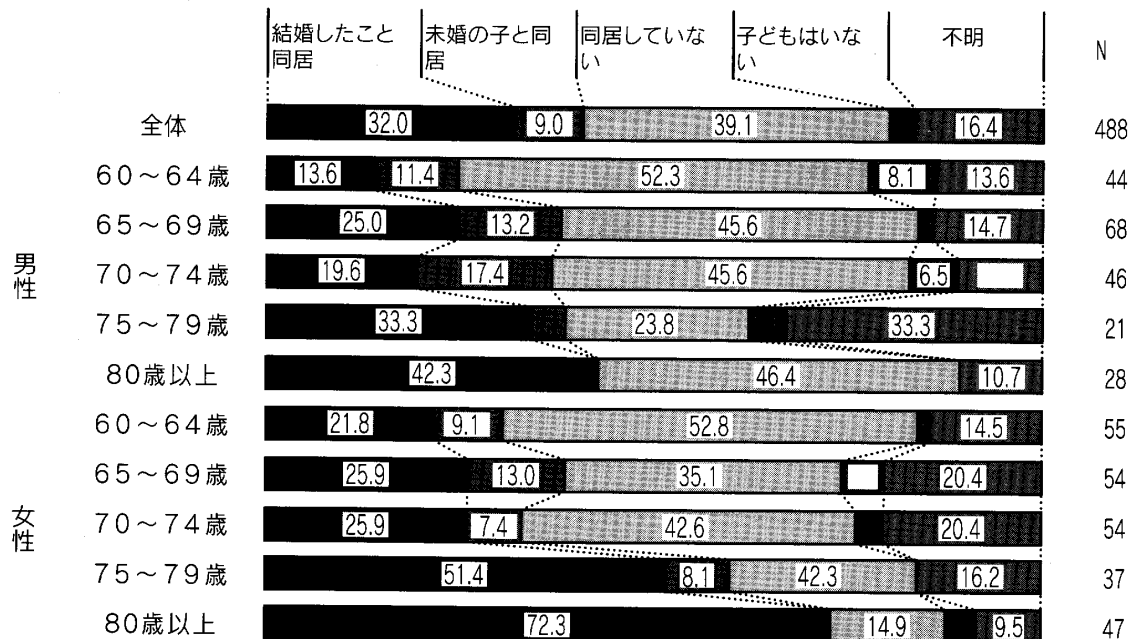
健 康 状 況



6 家族形態

結婚した子と同居している割合は32.0%・未婚の子と同居9.0%・同居していない39.1%・子どもはいない3.5%・無記入16.4%である。平成7年「国民生活基礎調査」では全国60歳以上で結婚した子と同居29.9%・結婚していない子と同居22.9%と、結婚した子との同居はほぼ全国

子どもとの同居



平均・結婚していない子との同居が少ない。大分県平均では結婚した子と同居25.9%・結婚していない子と同居16.8%で結婚していない子との同居が県平均やや低い。性別では女性・年齢が高くなるほど結婚した子との同居が多い。結婚した子との同居で、同居子は長男69.2%・長女14.1%・長男以外の息子10.9%・長女以外の娘3.2%と長男が多い。

結婚した子と同居していると答えた人について、食事はいつも一緒にしている86.5%・時々一緒6.4%・まれに一緒0.6%・別々0.6%・不明5.8%である。財布は一緒7.1%・財布は別だがお金は出し合う58.3%・別々25.0%となっている。住まいは専用の居室はない9.0%・専用の個室あり77.6%・子どもと別棟8.3%・無記入5.1%である。

## 7 別居子との関係・親族・友人

別居している子どもがいる人は67.9%である。別居した子がいる人について、別居の理由は就職63.0%・子どもが結婚して他家にいる33.3%が多い。

別居子との時間距離は1時間から半日が30.6%と最も多い。次いで30分から1時間以内22.2%で、30分以内は22.2%となる。不明が9.9%である。

別居子との関係（複数回答）は、心の安らぎを与えてくれる26.5%・野菜などを持ち帰らせる24.1%・孫に小遣いをやる23.5%・時々出かけ泊まってくる12.3%・田畑の仕事をしてくれる12.7%・日用品を買ってきてくれる16.7%などとなっている。ただし無記入が29.9%と多い。全体に子どもからの援助より子どもへの援助が多い。

子どもと同居していない人について、別居子と会う頻度は年1回以上31.81%・月1から2回25.0%が多い。電話でのやりとりは時々50.3%・頻繁17.64%、手紙のやりとりはない32.4%・ときどき8.3%・行き来は時々ある37.3%・まれにある16.7%・頻繁5.9%である。

何か問題にぶつかったときに、相談にのってくれる子ども以外の親族は、1から2人が18.4%・3から5人が42.0%・6から9人17.8%・10人以上10.9%となっている。いないは4.3%である。性別・年齢で差はない。

親身になって聴いてくれるような友人は、1から2人9.2%・3から5人33.6%・6から9人12.9%・10人以上7.6%となっている。性別・年齢別で差はない。

## 8 余暇・悩み・心配事・幸福感・不安感

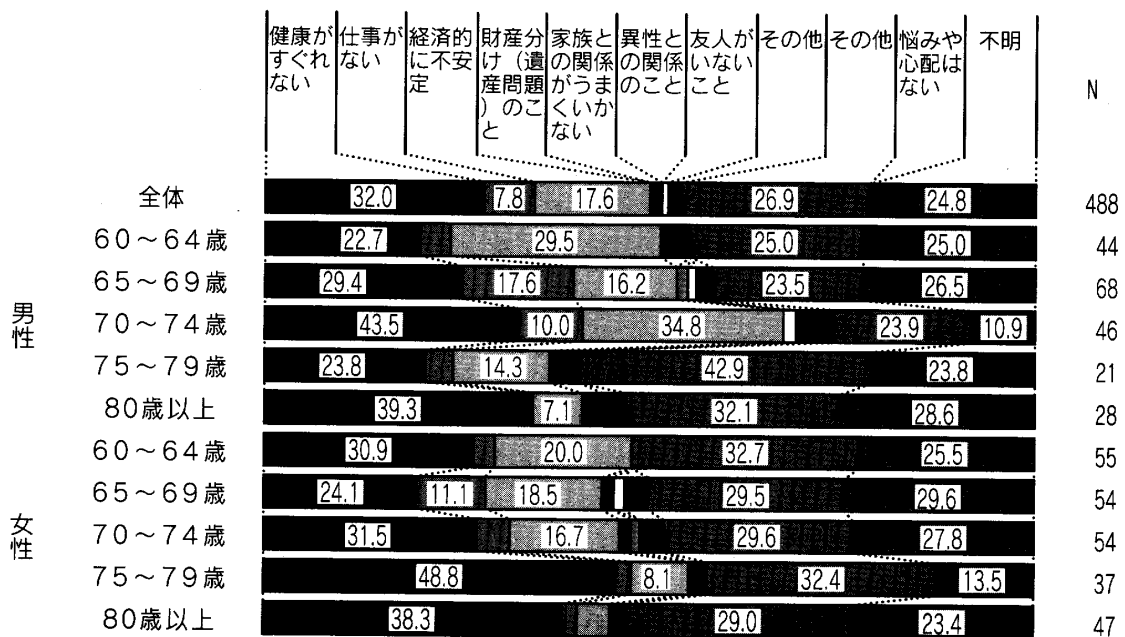
食事や睡眠・仕事の時間などを除く自由な時間の過ごし方（複数回答）について、テレビ・ラジオ61.9%がもっとも多く・家の雑用43.6%・家庭菜園づくり36.3%・休養30.9%・新聞雑誌を読む18.4%・病院がよい16.0%・散歩6.8%などとなっている。なお、地域の活動のお世話13人2.7%・ボランティア7人1.4%となっている。性別では男性で休養36.8%・新聞雑誌25.4%が多く、女性で家庭菜園46.6%が多い。年齢別ではゲートボールと病院がよいが80以上で多い。

悩みや心配事（複数回答）は、健康がすぐれない32.0%がもっとも多く、次いで経済的に不安定17.6%・仕事がない7.8%などとなっている。健康は年齢が高いほど多い。経済的に不安定は年齢が低いほど多い。

全体的な感じとしていま幸せかという質問に対して、幸せ35.0%・まあ幸せ44.5%・あまり幸せではない6.1%・幸せではない2.5%・わからない4.3%・無記入7.6%となっている。性別・年齢別に差はない。

毎日に生活の中で不安を感じることもあるかという質問では、よくある16.6%・いくらある45.7%・あまり感じない18.2%・ほとんど感じない11.1%・無記入8.4%である。年齢別で60歳代でよくある・時々あるが多い。

### 悩みや心配事



## 9 扶養・介護についての意識

子どもが老父母の面倒をみることについて、よいしきたり43.0%・子どもとして当然26.0%・福祉が不備だからやむおえない4.3%・よい習慣ではない1.8%・わからない12.3%・無記入12.5%となっている。性別で有意差はない。年齢が高いほど良いしきたりが多い。

体が弱くなって介護が必要になったとき、誰の世話を受けたいか（複数回答）について、家族・親族72.7%・公的サービス17.4%・福祉団体ボランティア6.8%・近所の友人4.5%・家政婦等の有料サービス2.0%・その他0.6%・無記入13.9%となっている。性別・年齢別で差はない。

家族・親族の中で、一番世話をしてもらいたい人は、配偶者34.4%・長男28.5%・長男の嫁16.3%・娘11.3%などが多い。男性では配偶者が52.3%・女性では長男31.1%・長男の嫁23.8%が多い。年齢別に差はない。

老後の生活責任について、自分の責任37.3%・家族の責任21.5%・行政の責任4.7%・社会の責任0.6%・わからない20.7%・無記入15.2%となっている。性別・年齢別で差はない。

ホームヘルプ・デイサービス・ショートステイ・入浴サービス・日常生活用具給付貸与・緊急通報システム・高齢者向け住宅改造などのサービスについて、知っているかどうかという認



知度は、ホームヘルプ68.9%・デイサービス54.9%・ショートステイ42.0%・入浴サービス57.4%・日常生活用具給付貸与41.8%・緊急通報システム30.5%・住宅改造49.4%となっている。緊急通報システムの認知度はやや低いが、全般にかなり福祉サービスは知られるようになっている。なお、ここでは無記入が多いが、無記入のほとんどは知らない・ないなどと考えられ、そのように解釈する。

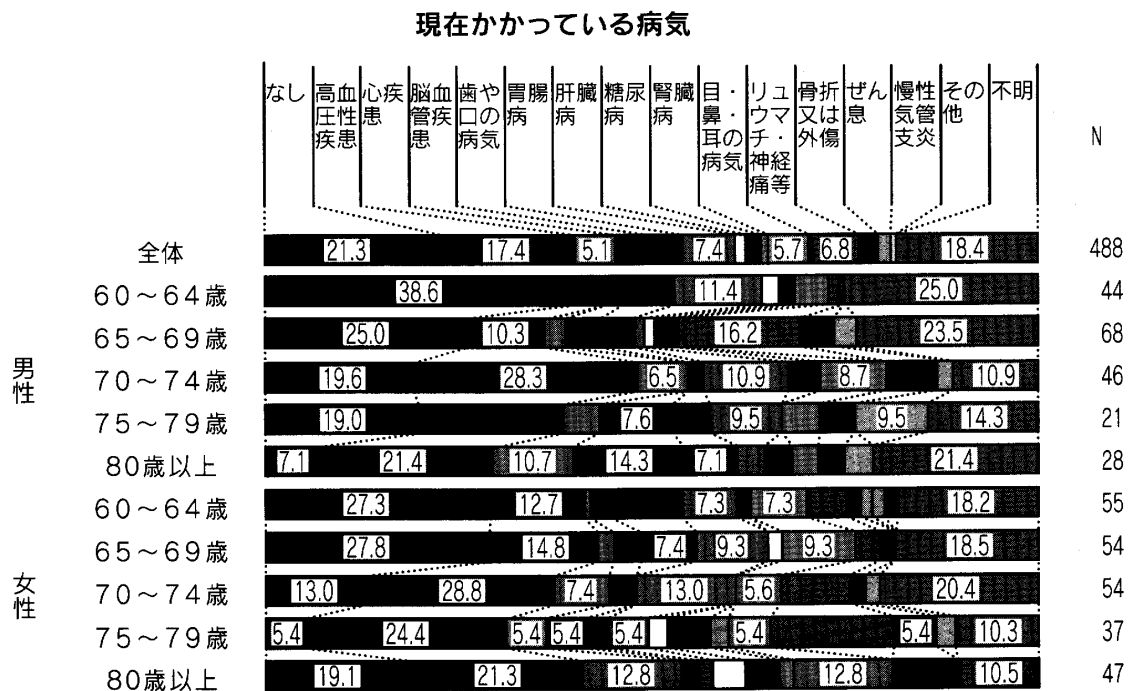
次に利用状況は、ホームヘルプ44人9.0%・デイサービス67人13.7%・ショートステイ9人1.8%・入浴サービス15人3.1%・日常生活用具23人4.7%・緊急通報4人0.8%・住宅改造4.5%である。

利用希望は、ホームヘルプ51.0%・デイサービス38.5%・ショートステイ29.9%・入浴サービス37.5%・日常生活用具35.5%・緊急通報システム38.5%・住宅改造45.9%である。ニーズがかなり急速に高まりつつあるように思われる。

老人ホームの利用について、現在手続き中3人0.6%・入所を希望13人2.7%・将来入所するかもしれない130人26.6%・入所することはない68人13.9%・入所したくない39人8.0%・わからない161人33.0%・無記入74人15.2%となっている。年齢で有意差があるが、高齢ほど将来入所するかもしれないが減って、入所することはないが増えるためである。

## 10 病気と身体状況

現在かかっている病気について、なし21.3%・高血圧性疾患17.4%・胃腸病7.4%・リウマチ神経痛6.8%・眼耳鼻の病気5.7%・心疾患5.1%・歯や口の病気4.5%・脳血管疾患4.1%・骨折外傷2.5%・糖尿病2.0%・ぜん息1.6%・肝臓病1.4%・腎臓病0.8%・慢性気管支炎0.6%・その他0.2%・無記入18.4%である。年齢とともになしが減って高血圧・心疾患などが増える。



性別で有意差はない。病気の期間は3年以上が63.3%と慢性病が多い。

身体状況について、移動は手助けなしに一人で73.8%・一部手助けが必要13人2.7%・全面的に手助けが必要7人1.4%・無記入22.1%である。食事は手助けなしに一人で76.0%・一部手助けが必要8人1.6%・全面的に手助けが必要5人1.0%・無記入21.3%である。排泄は手助けなしに一人で77.5%・一部手助けが必要3人0.6%・全面的に手助けが必要5人1.0%・無記入20.9%である。入浴は手助けなしに一人で75.4%・一部手助けが必要14人2.9%・全面的に手助けが必要5人1.0%・無記入20.7%である。着替えは手助けなしに一人で74.6%・一部手助けが必要14人2.9%・全面的に手助けが必要5人1.0%・無記入21.5%である。みだしなみは手助けなしに一人で75.6%・一部手助けが必要8人1.6%・全面的に手助けが必要4人0.8%・無記入21.9%である。意志疎通は完全に通じる69.9%・ある程度通じる32人6.6%・ほとんど通じない1人0.2%・無記入23.4%である。

## 11 調査結果の要約

以上の調査結果から若干の考察を行う。

- ・性別では男性42.8%・女性51.4%と女性が多い。
- ・年齢別では男性で65-69歳、女性では75歳以上の割合が高い。
- ・最終学歴は初等教育が79.3%と多い。
- ・上津江村の出身が74.4%、男性で84.7%と多い。
- ・他出経験ありは30.9%となっている。
- ・収入のある仕事をしている39.1%、全国32.2%・大分県30.0%よりかなり高い。内容は農業が57.1%と多い。
- ・収入源は年金が70.5%と多い。仕事からの収入は33.8%である。
- ・健康状態は健康42.6%・あまり健康とはいえない50.4%である。寝たり起きたり3.1%で15人・寝たきり0.8%で4人である。
- ・家族形態は結婚した子との同居率32.0%で、ほぼ全国並みである。子どもは長男が69.2%と多い。食事はいつも一緒86.5%だが、財布は別だが出し合う58.3%・別々0.6%となっている。郡部としては同居率が低いがほぼ平均的な家族形態である。
- ・別居している子どもがいるは67.9%、1時間以内にいるは44.4%・1時間から半日は30.6%である。
- ・子どもと同居していない人について、子どもと会う頻度は年数回31.8%・月1~2回25.0%が多い。
- ・自由な時間の過ごし方（複数回答）は、テレビ・ラジオが61.9%、家の雑用43.6%・家庭菜園づくり36.3%・休養30.9%などとなっている。
- ・悩みや心配事は、健康がすぐれないが32.0%・経済的に不安定17.6%などとなっている。
- ・全体的な感じとして、いま幸せかについて、幸せ35.0%・まあ幸せ44.5%・あまり幸せでない6.1%・幸せでない2.5%などとなっている。
- ・毎日の生活で不安を感じるかどうかについて、よくある16.6%・いくらかある45.7%・あまり感じない18.2%・ほとんど感じない11.1%などとなっている。

### 過疎化・高齢化の地域特性に関する比較研究Ⅲ

- ・体が弱くなって介護が必要なとき、誰の介護が受けたいか（複数回答）について、家族親族72.7%・公的サービス17.4%・福祉団体ボランティア6.8%などとなっている。
- ・家族の中で世話をしてもらいたい人について、配偶者34.4%・長男28.5%・長男の嫁16.3%・娘11.3%などである。
- ・各種サービスの認知度は、ホームヘルプ68.9%・デイサービス54.9%・ショートステイ42.0%・入浴サービス57.4%・日常生活用具給付貸与41.8%・緊急通報30.5%となっている。
- ・老人ホームの利用について、入所手続き中3人0.6%・入所を希望13人2.7%・将来入所するかもしれない130人26.6%・入所することはない68人13.9%・入所したくない39人8.0%などとなっている。
- ・現在かかっている病気は、なし21.3%・高血圧17.4%・胃腸病7.4%・リウマチ神経痛6.8%などである。

---

\*1 国土庁地方振興局『平成9年度版過疎対策の現況』、1997年。

\*2 同一の調査票で、山口県錦町でも調査を実施した。拙著「過疎化・高齢化の地域特性に関する比較研究Ⅱ」、大分県立芸術文化短期大学研究紀要第35巻、1997年。

\*3 厚生省大臣官房統計情報部『平成7年版国民生活基礎調査第3巻都道府県編世帯』